

令和 7 年 7 月 2 日
独立行政法人国立科学博物館

世界で最も大きな「花」のひとつ ショクダイオオコンニャクが開花します！

国立科学博物館 筑波実験植物園(園長 遊川 知久)において、世界で最も大きな「花」のひとつ、ショクダイオオコンニャクが 7 月上旬ごろ開花する見込みです。当園でショクダイオオコンニャクが開花するのは、2023 年以來 2 年ぶり 8 回目で、この個体が開花するのは 2 回目です。今回は本種としては異例の軽さのイモに花芽が着いたことで、成長から目が離せません。

【ショクダイオオコンニャクの特徴】

ショクダイオオコンニャクは、スマトラ島(インドネシア)の限られた場所に生えるサトイモ科の絶滅危惧種です。「花」(植物学的には花序=花の集まり)は高さ 3 メートル、直径 1 メートルになるものもあり、世界でもっとも大きな「花」をもつ植物のひとつとされています。また、開花後は 独特の強烈な悪臭を放ち世界でもっとも醜い花とも呼ばれています。

開花するのは、2023 年 5 月 19 日に咲いた個体(2 号)で、2023 年に続き 2 回目の開花となります。「特設ホームページ」で紹介しておりますように、この植物のおもしろさは成長のプロセス、つまり日々大胆に変化する花芽の形とサイズにあります。今回は 13.1kg と本種としては異例の軽さのイモに花芽が着いたことで、これからどのような成長をするか興味深く、育つ姿をぜひ取材いただければと思います。

これまで 6 回開花した個体(1 号)の大きな葉や、人工授粉により得られた種子から生育する次世代の苗も合わせてご覧ください。

【展示のご案内】

7 月 2 日(水)より熱帯雨林温室前にて、ショクダイオオコンニャクの解説や過去の開花の様子をパネルでご紹介します(注意:この時点では開花してません。開花日が判明しましたら、改めてお知らせいたします)。また人工的に合成した花の匂いの体験ができますので、併せてお楽しみいただけます。つきましては、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。



2023 年 5 月 20 日開花時の様子

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当: 稲葉祐一 久保田美咲

担当研究員: 遊川知久 堤千絵(植物研究部 多様性解析・保全グループ)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<https://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物HP

<https://tbg.kahaku.go.jp/>

<概要>

・ショクダイオオコンニャク

和名:ショクダイオオコンニャク(燭台大蒟蒻)

学名:*Amorphophallus titanum*

科名:サトイモ科

分布:スマトラ島(インドネシア)の熱帯雨林

花序の最大のサイズ:高さ 3.1m(ギネス世界記録)、直径1m

(註)ショクダイオオコンニャクの「花」は正確には花序(花の集まり)で、例えばヒマワリの花と同じ

・今回の開花について

開花予想時期:令和 7 年 7 月上旬

花の見ごろ:開花日を含め 2～3 日。2 日目には仏炎苞(ぶつえんほう)が閉じはじめます。

・展示場所について

国立科学博物館 筑波実験植物園 熱帯雨林温室(茨城県つくば市天久保 4-1-1)

・特別開園時間について

できるだけ多くの皆さまにご覧いただけるよう、開花後 2 日間は、開園時間を 8:30～18:00 とします(入園は 17:30 まで)。

・特設ホームページ

筑波実験植物園 特設ホームページ <https://tbg.kahaku.go.jp/news/konnyaku/> にて、成長の様子や開花の予想、見どころなどを紹介しています。

・ショクダイオオコンニャク2号の履歴

2017 年 6 月 京都府立植物園から譲受

2023 年 2 月 6 日 植え替え(イモ重量 15.5kg)

2023 年 5 月 19 日 開花(高さ 190cm)

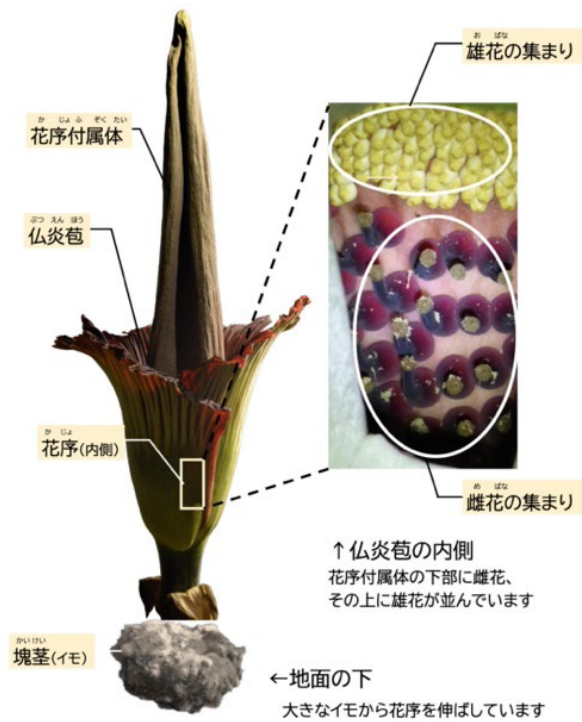
2025 年 2 月 28 日 植え替え(イモ重量 13.1kg)

参考:令和 5 年に開花した個体(高さ 261cm)のイモ重量は 75kg でした。



ショクダイオオコンニャク(2号)のイモ
(令和 7 年 2 月 28 日)
イモ重量 13.1kg

花のつくり



ショクダイオオコンニャクの花のつくり